

D一 信者宅五十日祭

これの仮の社に暫しお鎮まり下さいませ 故○○○○刀自の霊の前に
天理教○○分教会長○○○慎んで申し上げます

久方の空行く月のさやかな光にも 立ち迷う浮雲の障りがある如く
いつまでも健やかに明るくお暮らし頂きたいと心より願っております
したのに 汝刀自は去る五月三十日齡九十二歳の長命ながら 入る月の影消えるが如くはかなくも現身をかくされてしまいました 夜空にかゝる月影を見ては ありし日の笑顔を思い浮べ 懐かしき面影を
瞼に描いておりますが 早や五十日の月日が夢の間に過ぎ 今日茲に
霊祭をつとめさせて頂く日と相成りました 御前に汝刀自の家族親族
又親しき人々寄り集い 改めてご生前の道すがらをあれこれと語り合
い 共に喜び共に涙した昔をそれぞれ偲んでおります

思い返せば汝刀自は大正○年十月十四日○○市○○区にて生を享け
られ 昭和十年も暮れの十五日芽出度く今は亡き○○○大人と夫婦の契
りを結ばれ新たななる家庭を持たれましたが 終戦後間もなく復員して
きた夫君と○○○製造の業をされ その間次々と子達に恵まれる中 月
に二日の休みには 家族揃ってのプール遊びなどに興ぜられたことは
子ども心に深く幸福を味合わせたことと思えます また家業を第一と
する中にも 自分のことはさておき地域社会における種々の役を務め
た功績は枚挙にいとまがありません しかしながら如何なる思召か俄
かに朝を迎え夕を過ぎす力も尽き果て この年天寿を全うされ 親神
のふところの中とは云いながら 遠く遙けき旅路に出て立ち給いまし
た 本日御遺骨を埋葬するに先立ち 御前にとりどりの品々をお供え
させて頂き 一人ひとり心をお籠めて伏し拝む姿を御覧下さいまして
汝刀自はよりよき来世をお迎え下さると共に 天翔り国翔り先にな
り後になり○○○家はもとより 縁深き人々を 夜の守り日の守りにお
見守り下され 尚又それぞれの持場立場を通して陽気あふれる世界が
周囲に現れますようお導きの程を 一同と共に慎んでお願い申し上げます